

日光医療センター通信

～いろは～



獨協医科大学日光医療センター
Dokkyo Medical University Nikko Medical Center

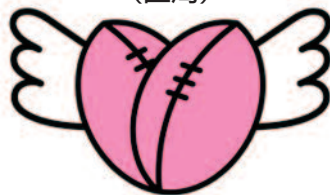
第20号



(放射線部)



(医局)



“チーム医療”

(臨床検査部)



(看護部)



(薬剤部)



日光医療センターを支えるスタッフ (第一弾)

主な内容

診療紹介 (外来化学療法)	2
病棟紹介 (3階南病棟)	3
患者様へのお知らせ ～自動再来受付機及び 自動精算機が新しくなりました～	4
2号館1階改修工事のお知らせ	5
旬を食べよう / 求人情報	6



診療紹介 シリーズで当センターの診療内容についてご紹介いたします。

▶ 外来化学療法

化学療法とは、がんの治療法のなかで抗がん剤を使用する治療法のことです。手術や放射線治療と並んでがんの治療法の中で重要な役割を果たしています。最近、開発された新しい抗がん剤や以前からある抗がん剤を多種類組み合わせることで治療を行うことにより、より高い治療効果が得られるようになってきました。このため、抗がん剤による治療の必要性や重要性が次第に広く認められるようになってきました。日本における通常の臨床の場でも、胃癌や大腸癌、肺癌、乳癌、前立腺癌などの多く患者様に対して抗がん剤を用いた治療が行われるようになってきました。しかし、この抗がん剤による治療法の特徴として、長時間連続して点滴を行う治療法が多いことがありました。治療に必要な時間が長いため、抗がん剤による治療は基本的に入院が必要とされていました。また、治療に伴って嘔吐や下痢などの副作用も強く発生するため、栄養補給や脱水の補正などのために入院が必要となっていました。さらに、抗がん剤治療は1回で終了するのではなく、3週間から1ヶ月に1回の割合で、半年以上も定期的に入院して治療を継続する必要がありました。



最近になって、以前は24時間以上も長時間の点滴が必要であった薬品と同程度の効果が数時間の治療で得られる薬品が開発されてきました。また、嘔吐や下痢、白血球の低下、皮膚障害などの抗癌剤の治療に伴って発生する副作用に対処する治療法も進歩し、障害の程度が低く抑えられ、輸液などの入院治療が必要でなくなってきました。また、患者様の生活や治療に対する考えにも変化が現れてきました。それは、日常生活や仕事などの社会生活を入院による治療で休むのではなく、外来で抗がん剤治療を行い、日常生活はそのまま続けた方が、癌との長期間にわたる治療を続けていく上でより高い日常生活のレベル（QOL）を得られることがわかってきました。このため、入院ではなく外来で化学療法を行うことが、多くの医療機関で次第に広がってきました。当院でも、外来で治療を行う患者様が次第に増えてきていました。

一方、この化学療法を外来で安全に行うためには、本来危険な薬品である抗がん剤を調合するために、飛び散った抗がん剤を吸引しないように空気の流れを調節する安全キャビネット内で調合するシステムが必要でした。今回の外来化学療法室の設置に当たり、この薬の調合を行うシステムを薬剤部に設けました。さらに、使用する抗がん剤の使用量を確実なものとするための、薬剤部での使用薬品量のチェック体制も設けました。



患者様向け情報誌

また、治療に必要な時間は以前よりも確実に短縮されてきてはいますが、治療の種類によっては4～5時間の点滴時間が必要な場合もあります。このような長時間にわたる点滴治療を行うことがあるため外来化学療法室では、患者様の治療ベッドをリクライニングができ、座ったままでも、横になっても点滴ができる安楽なベッドに変更いたしました。また、点滴のため移動が制限され、手の自由も減るため、気分を紛らわせるためにテレビもご覧になれるように設置しました。

以上のような調剤や治療用の専用ベッドなどのシステムを設けたことで、厚生労働省の外来化学療法室設置基準を満たすことができます。安全に治療を継続していくために、体調の管理や治療中の体調の変化にも対応することも必要です。このため、3床のベッド数ですが専属の看護師も配置いたしました。このため、治療費に以前は含まれていなかった外来化学療法加算と無菌調剤加算の費用が増えています。このため、治療代の総計が少し増加しています。この

費用は、これからも確実に進歩していく抗がん剤治療を、安全で確実にを行うために外来化学療法室を維持するためのものです。良好な治療環境を維持するためご負担をいただきますがよろしくお願いたします。

これからのがん治療を行う中心となる外来化学療法室を設けたことで、当院の各診療科で選択された最適ながん治療法を、安全に、継続的に行うことが可能となりました。ただ、外来化学療法室での治療されている患者様は、小さな体調の変化でも大きな副作用のきざしであることもあります。ほんの少しの体調の変化でも看護師にお伝えいただけるようお願いいたします。

病棟紹介 シリーズで当センターの各病棟をご紹介します。

▶ 3階南病棟

3階南病棟は、呼吸器内科、膠原病・アレルギー内科、糖尿病・内分泌内科の患者様が、治療や検査目的で入院されてきます。病状によっては緊急で入院される患者様もあり、急性期から慢性期まで対応できるよう医師と協力しながら日々看護にあたっています。

メンバーは手塚師長を筆頭に、看護師29名・看護補助2名の計31名です。

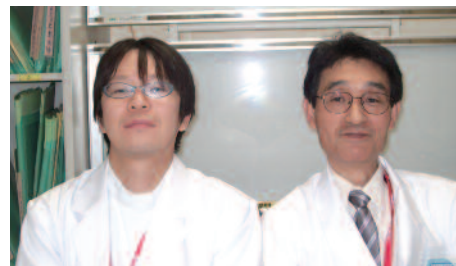
診療科は主に呼吸器内科、膠原病・アレルギー内科と糖尿病・内分泌内科で、呼吸器内科は原澤教授、膠原病専門の戸田教授、小原先生、大西先生の4名で、糖尿病・内分泌内科は伴場准教授、中谷先生の2名で計6名の先生方が診療を行っています。

呼吸器、膠原病・アレルギー内科



左から 小原先生 戸田教授 大西先生 岩崎先生 原澤教授

糖尿病・内分泌内科



中谷先生 伴場准教授

3階南病棟に入院してくる患者様は、病状の悪化で緊急入院となり点滴や酸素療法が必要になる場合や検査目的、在宅酸素導入、インスリン導入などの教育を目的に入院される方など様々です。このような様々な背景で入院される患者様に、安全で安楽な治療・看護が提供できるよう日々努めています。

入院患者様の治療方針の確認や在宅退院・転院に向けての調整を地域連携医療部（小林主任・医療ソーシャルワーカー丸山さん）、理学療法士の方を交えながら週に4回、カンファレンスで話し合います。カンファレンスでは、それぞれの立場から意見交換を行い、患者様にとって最善の状態での退院や転院が迎えられるよう調整を行っています。



糖尿病の教育目的で入院された患者様は、万歩計を装着し、1日1万歩を目標に自分のペースで病院周囲を歩いたりしています。運動する習慣を身につけていただければと考えた結果、病棟内で“ラジオ体操”を実施することになりました。月曜日から金曜日の13時過ぎから開催しており、糖尿病の患者様だけでなく呼吸器内科で入院している患者様や看護師、時には医師も協力して参加しています。



皆でラジオ体操をしています



時々ですが先生たちも参加しています

3階南病棟では患者様が安心して入院生活が送れるよう、また退院後の生活への不安が少しでも軽減できるよう、今後とも他部門のスタッフと連携し治療・看護にあたっていきたいと思えます。

患者様へのお知らせ ～自動再来受付機及び自動精算機が新しくなりました～

平成25年2月18日（月）から自動再来受付機及び自動精算機が新しくなりました。つきましては、**新たな自動再来受付機**の操作手順が一部変更となりますことをお知らせいたします。

患者様には、ご理解とご協力をお願いいたします。

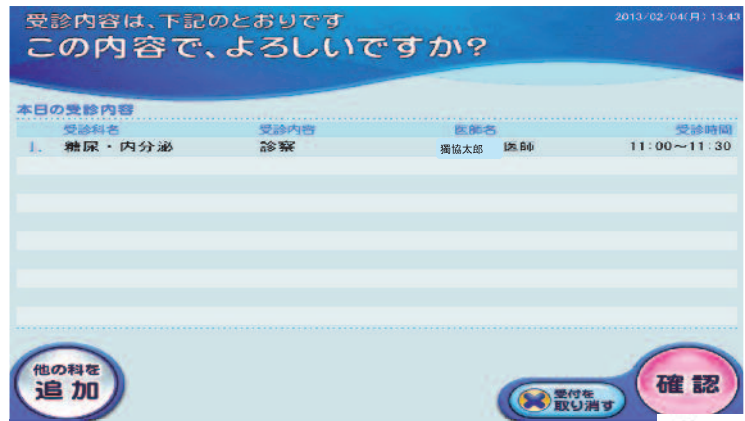
●自動再来受付機

・受付画面が下記のとおり変更となります。



自動再来受付機

自動再来受付機・・・予約患者様受付画面



※ 他の科を追加受診したい場合は、こちらのボタンを押してください。

①受付内容がよろしければこちらのボタンを押してください。

自動再来受付機・・・予約外受診の際の受付画面



※予約外受診の際の受付画面のイメージとなっており、現在の自動再来受付機と比較し「診療科ボタン」と「本日の受診内容」枠の配置が、変更となっております。

●自動精算機

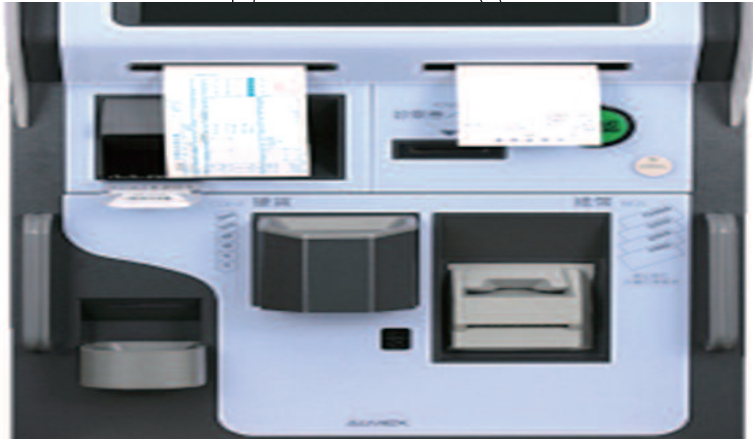
・精算画面の変更は、ありません。

なお、領収書の発行と同時に明細書が発行されます。



自動精算機

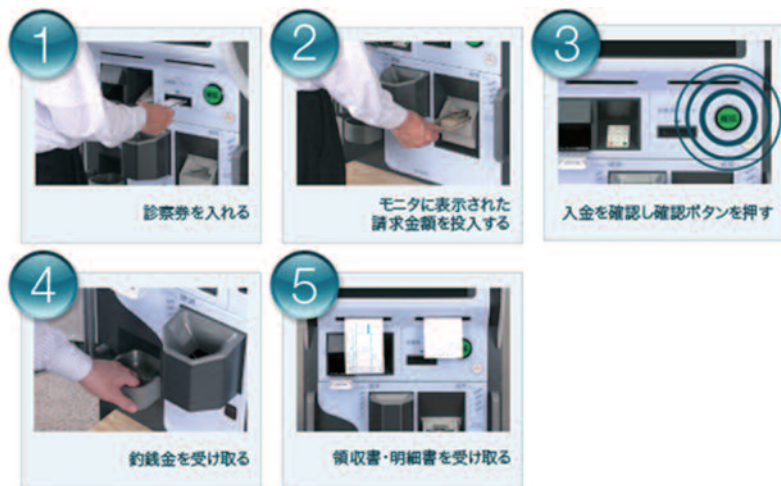
自動精算機・・・領収書と明細書が同時に発行されます。



※厚生労働省令療養担当規則に基づき、個別の診療報酬の算定項目の分かる明細書を自動で無料にて発行することいたしました。

※明細書の発行を希望されない方は、会計窓口にてその旨お申し出下さい。

なお、明細書には、個人情報が記載されておりますので、お取扱いにつきまして、ご注意くださいいただきますようお願いいたします。



2号館1階改修工事のお知らせ

当センターでは、3月下旬まで、心大血管疾患リハビリテーション部門拡充を目的とした、2号館1階の改修工事を実施しております。

なお、工事完了後、4月からは、現在実施しておりますトレーニングマシンが増設されるとともに、スポーツインストラクターによるエアロビクス訓練が開始されますのでお知らせいたします。

工事期間中は、患者様をはじめ関係各方面の皆様にご迷惑をお掛けいたしますが、ご協力の程よろしくお願いたします。
(管理課)



旬を食べよう

キウイフルーツ

ニュージーランドの国鳥であるキウイバードという翼のない鳥に形が似ていることが、名前の由来とされています。

外国産や国内産など、日本では一年中出回っています。国内産のキウイフルーツは冬から春にかけて旬を迎え、店頭によく並ぶようになります。



《 栄養 》

他の果物に比べてキウイフルーツには、ビタミンCが特に豊富に含まれています。小さいキウイフルーツ2個で、1日に必要なビタミンCをほぼ補給できます。ビタミンCには、骨を丈夫にし、コラーゲン生成を促し肌のハリを保つ働きがあります。また、キウイフルーツには食物繊維も豊富に含まれています。食物繊維は、便秘を予防してくれるだけでなく、体内の余分なコレステロールを吸着し排泄してくれる働きがあり、生活習慣病の予防にも効果があります。

《 選び方と保存方法 》

- うぶ毛がびっしりついていて、形が良く、キズやヘコミがないものを選びます。
- すぐに食べる場合は、さわって少しやわらかいものを選びます。熟していないものを早く食べごろにしたいときは、りんごやバナナと一緒にポリ袋に入れて密封しておく、早く熟してやわらかくなります。
- 長く保存したい場合は、硬いままポリ袋に入れて冷蔵します。



《 おすすめの食べ方 》

- キウイフルーツにはたんぱく質分解酵素のアクチニジンが含まれています。アクチニジンには、肉や魚と組み合わせることで、消化を促進してくれる働きがあります。肉料理の下ごしらえや肉料理のソースなどに使ってみましょう。肉料理を食べたあとのデザートにも最適です。

(管理栄養士)

当センターで 一緒に働いてみませんか？

平成25年度採用 看護職員募集中

詳細なお問い合わせは下記まで
TEL 0288-76-1515
(内線270) 看護部
※平成24年度採用についても
随時対応いたします。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。平成25年が始まりました。今年はい年です。「漢書 律曆志」によると巳年については「止む」意味の「巳」とし、草木の生長が極限に達して次の生命が作られはじめる時期と記述されているそうです。毎年、新年を迎える度に1年間頑張ろうと思うものの、日々の忙しさに流されがちになってしまいます。しかし、せっかく気持ちを新たに迎えたこの年を今年こそはさらなるステップアップができることを期待してより良い1年となるように、無理なく・あせらず・前向きにいきたいと思います。

(M・Y)

日光医療センター通信 ～いろは～ 第20号

※今月から新たに日光医療センター通信の愛称を“いろは”としました。

〒321-2593 栃木県日光市高德632番地 TEL 0288-76-1515(代表) FAX 0288-76-1611

<http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/indexj.html>

携帯サイトはこちら

発行年月日/平成25年2月1日

<http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/i/>

編集・発行/獨協医科大学日光医療センター広報委員会

または、右記のQRコードを読み取り

印刷/株式会社松井ピ・テ・オ・印刷

アクセスして下さい。

